

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城北中学校

4月に文部科学省による全国学力・学習状況調査を実施しました。結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

■ 調査期日

令和6年4月18日（木）

■ 調査の対象学年

3年生生徒全員

■ 調査の内容

（1）教科に関する調査（国語、数学）

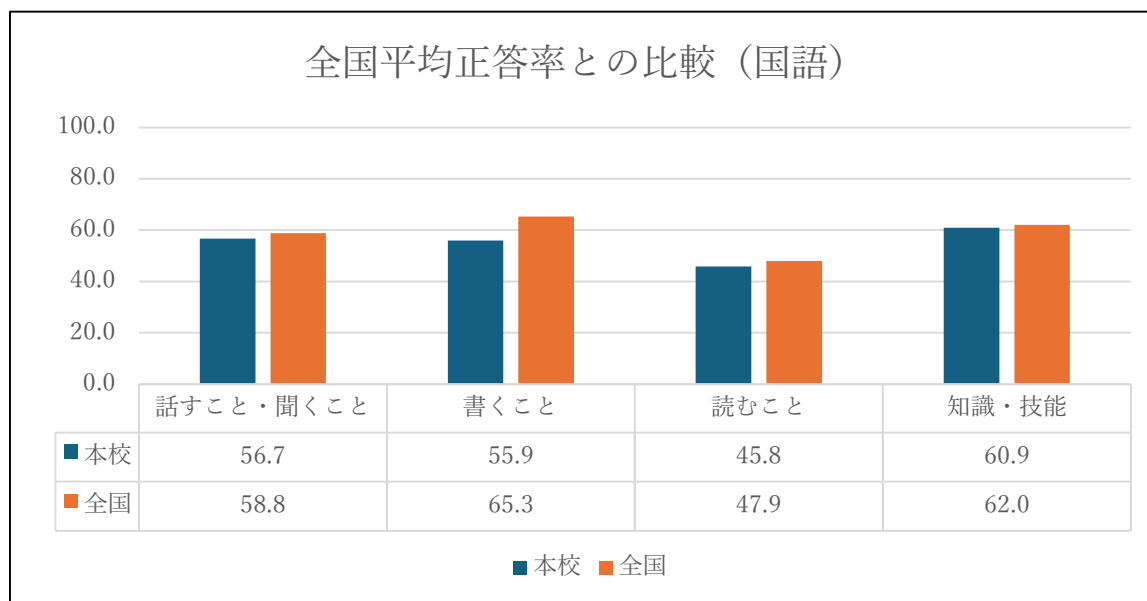
- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

（2）生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 （例）国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果および考察

1 国語



（１）結果

本校の全体正答率は 55.0 となり、全国正答率 58.1 を 3.1 ポイント下回る結果となりました。「思考力・判断力・表現力」領域のうち「話すこと・聞くこと」と「読むこと」についてと、「知識・技能」領域については全国正答率と 2 ポイント未満の差でしたが、「書くこと」については、本校正答率が全国正答率よりも 9.4 ポイント下回っていました。

（２）成果と課題

今年度の結果は、全国正答率を下回っていましたが、「思考力・判断力・表現力」領域のうち「話すこと・聞くこと」「読むこと」についてと「知識・技能」は県平均正答率を上回っていました。特に「知識・技能」の、話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する問題は、全国平均正答率を 6 ポイント上回っていました。課題となる「書くこと」については、自分の考えを書いたり、工夫した表現の効果を説明したりする問題についての無解答率が 10 ポイントを上回っていたことを踏まえ、根拠を明確にして書くことを意識させることが必要です。

（３）学力向上のための取組

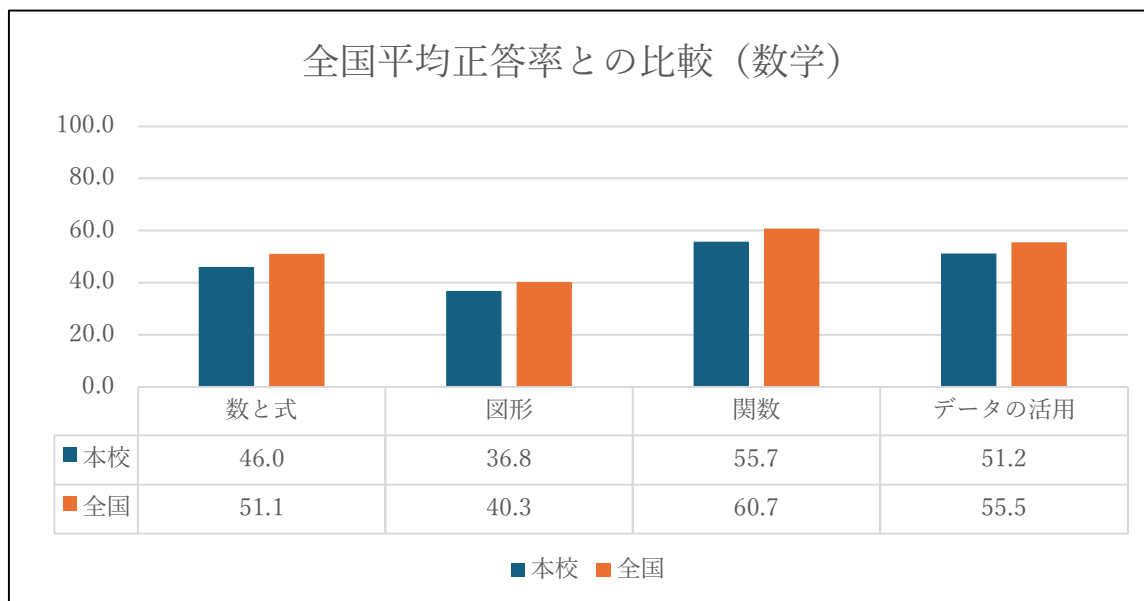
【学校では】

- 単元シートを活用して、身に付けたい力と見通しを明らかにし、目的意識をもって学習に取り組めるようにしています。
- 『学び合い』を継続し、交流しながら多様な考え方に触れるとともに、言葉で伝え合う場を取り入れた授業を行っています。
- 文章や話を、「比べながら」「批評しながら」など、視点をもって読む学習の場を設定しています。

【ご家庭では】

- 国語は家庭生活における、話す・聞く・書く・読むことが重要です。ご家庭の方も一緒に会話や読書等を楽しんでください。
- 学校では、起床時刻・就寝時刻・学習開始時刻の 3 つの時刻を毎日同じようにすること（三点固定）を呼び掛けています。生活のリズムと朝食をとることの重要性や、スマートフォンやゲームが脳に与える影響などについても、お子さんと十分に話し合って、生活のリズムを整えさせてください。

2 数学



（１）結果

本校の全体正答率は 48.0 となり、全国正答率 52.5 を 4.5 ポイント下回る結果となりました。各領域とも、全国正答率よりも 3.5 ポイントから 5.1 ポイント下回っていました。領域ごとの、全国正答率に対する本校正答率の割合は 92.2%～90.0%となっており、全国平均と比較して、領域ごとの大きな偏りは見られませんでした。

（２）成果と課題

今年度の結果は、全国正答率を下回っていましたが、県平均正答率と比較すると、平均正答率は 48.0 で本校正答率と同一で、「数と式」領域においては 1.3 ポイント、「図形」領域においては 3.0 ポイント上回っていました。数学的な性質を説明したり、2つの三角形が合同であることを証明したりする問題に対する無解答率が 30%を上回っており、基本的な説明を、自分の言葉で書く取組が必要です。

（３）学力向上のための取組

【学校では】

- 単元ごとに単元シートを作成し、その単元で身に付けたい力やどのような過程で学習していくのかを提示していくことで、見通しをもって粘り強く学習に取り組むことができるようにしています。
- 『学び合い』の授業に取り組み、授業の中で全員達成を目指し、学習内容の理解を図るとともに、周りに伝える場面を設定しています。
- 授業の 2 分前から計算プリントに取り組むことで課題である「数と式」における基礎計算力の向上を図っていきます。

【ご家庭では】

- 学習内容の定着のためには、復習とその継続が欠かせません。家庭学習の時間を確実に設け、習慣化してほしいと思います。
- 練習問題やテストなどでの間違いをそのままにせず、事後の解き直しを大事にしてほしいと思います。また、より理解を深めるために、類似問題や発展的な問題に取り組むことも大切にしてほしいと思います。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※下の表は、各質問項目について「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」「どちらかといえ
ばあてはまらない」「あてはまらない」のうち「あてはまる」と回答した生徒の割合を示していま
す。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

(単位：%)

調査項目	本校生徒 回答	全国平均
朝食を毎日食べていますか。	80.9	79.1
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	41.9	34.9
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	64.0	55.3
自分にはよいところがあると思いますか。	51.5	40.4
将来の夢や目標をもっていますか。	40.4	36.1
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	77.2	68.6
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	84.6	77.5

すべての項目について、全国平均よりも上回っていました。また、本校の昨年度の割合よりも上回っ
ています。

《家庭学習の様子》

(単位：%)

調査項目	本校生徒 回答	全国平均
学校の授業時間以外に、普段1日あたりどれくらいの時間勉強していますか。		
① 3時間以上	6.6	9.2
② 2時間以上、3時間より少ない	13.2	22.5
③ 1時間以上、2時間より少ない	27.9	32.6
④ 30分以上、1時間より少ない	26.5	18.4
⑤ 30分より少ない	16.9	10.4
⑥ 全くしない	8.8	6.6

1時間以上勉強している生徒の割合が、全国平均より下回っていました。

(2) 改善のための取組

【学校では】

- 授業においては、「主体的、対話的で深い学び」を踏まえながら、思考力・判断力・表現力の定着を図るような授業改善に努めていきます。また、授業と連動した課題の工夫、単元シートや定期テスト前のチェックシート、学習計画表を活用し、家庭学習の定着を図ります。
- 学校行事や生徒会活動等で、出番・役割・承認のサイクルで、個に応じた出番を設定し、その役割を果たすための過程を承認することで、自己有用感を高める取組を進めます。また、毎週の「北辰タイム」や学級、学年での活動を通して、コミュニケーション力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 学習内容の定着のためには、復習とその継続が欠かせません。家庭学習の時間を確実に設け、習慣化してほしいと思います。
- 練習問題やテストなどでの間違いをそのままにせず、事後の解き直しを大事にしてほしいと思います。また、より理解を深める為に、類似問題や発展的な問題に取り組むことも大切にしてほしいと思います。